

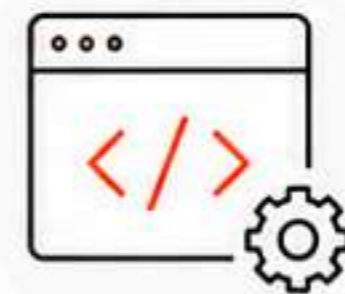
自走する、AI人材を。

中小企業向け 課題解決型AI研修サービスのご案内

①
課題の発見



②
仕組みを構築



③
現場で改善が回る



全国訪問型



完全オーダーメイド



助成金活用サポート



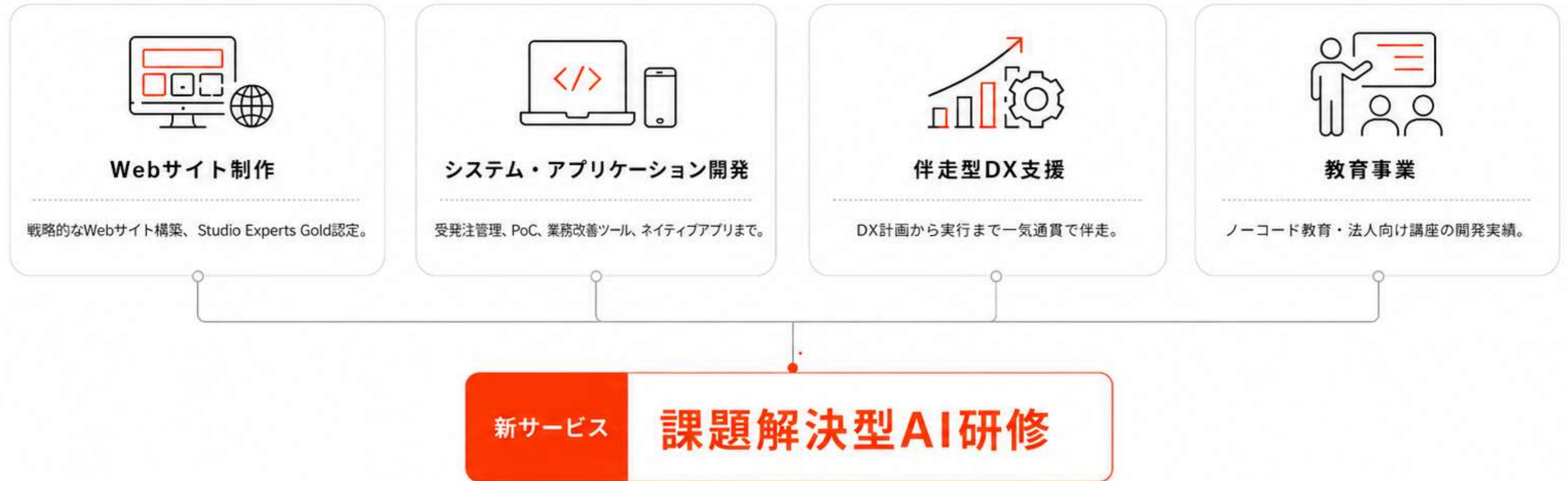
毎月5社まで



株式会社ユルリカ

これまでの事業で培った経験・ノウハウをもとに、**AI研修サービス**を開始。

Web制作・開発・DX支援・教育の4領域で培った実績と現場理解を、AI研修に活かし、中小企業の課題解決を伴走支援します。



ツール提供ではなく、御社の**業務で使える仕組み**を作り、研修後も**組織に残す**。

いま、経営の現場で起きていること

AIの必要性は分かる。でも、踏み出せない4つの理由。

01



AI導入の第一歩がわからない

どこから手をつければいいのか、
何のツールを選べばいいのか、
社内に判断できる人材がない。

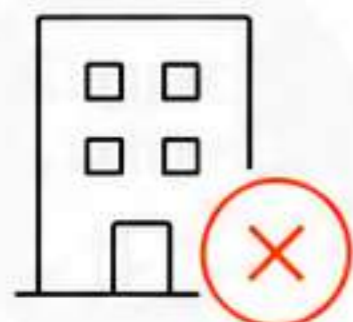
02



研修を受けても、 業務に活かせるか不安

汎用的な内容ばかりで、
自社の業務にどう適用するか
イメージできない。

03



現場を見て、 一緒に考えてくれる会社がない

大手ベンダーはオンライン中心で、
自社の現場や課題を深く
理解してもらえない。

04



費用対効果が見えず、 投資に踏み切れない

効果の見通しが立たず、
ROIの説明や助成金手続きも
よく分からない。



“知識習得”だけでなく、“**現場の業務改善**”まで求められている。

このまま放置すると、3年後に起きること

AI活用が進まない企業の競争力は、気づかないうちに落ちていきます。



**業務効率・生産性で
競合に差をつけられる**

AI先行企業との差が広がり、コスト構造でも提案スピードでも不利になっていきます。



**若手人材の採用が難しくなり、
定着率も低下する**

AI活用が進まない職場は、成長機会が乏しく見え、若手から敬遠されやすくなります。



**業務の属人化が深刻化し、
退職・異動が経営リスクに**

特定の人にしか分からない業務が増え、退職や異動のたびに知識が失われます。



“今は困っていない”が、将来の競争力低下につながります。

現場に来て、 業務課題そのものを、 研修中に**解決する。**

研修中に、御社の業務で使う仕組みそのものを作りあげます。
研修が終わったとき、組織には「動き続ける仕組み」と
AIを活用した課題解決のノウハウが残ります。



1

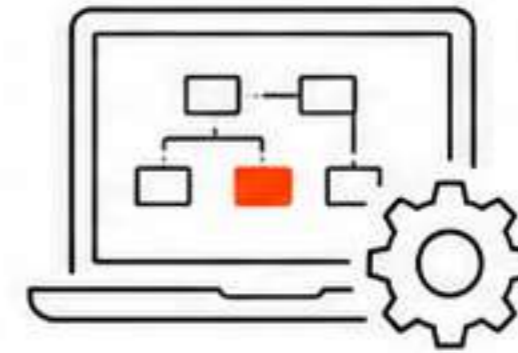
現場の課題を
見つける



現場に入り込み、ヒヤリングや
ディスカッションを通じて、
優先度の高い課題を特定します。

2

仕組みを作る



AIやシステムを活用し、
業務に合った仕組みを
研修中に構築します。

3

改善・成果を
生み出す

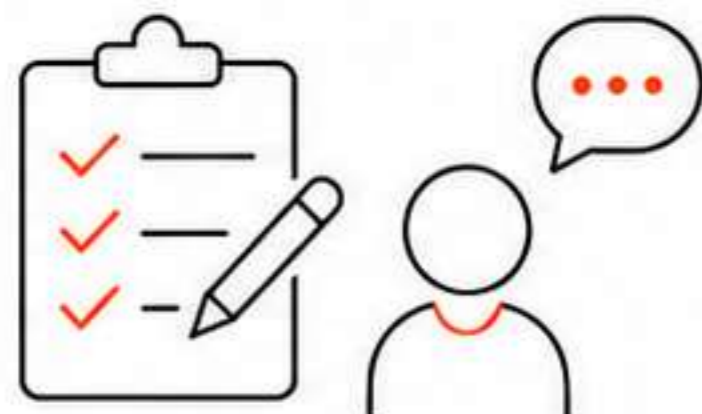


現場で運用しながら改善を重ね、
業務効率化や成果向上に
つなげます。

課題解決型AI研修 / 3つの特徴

業務課題を研修中に解決し、自走できる人材を組織に残します。

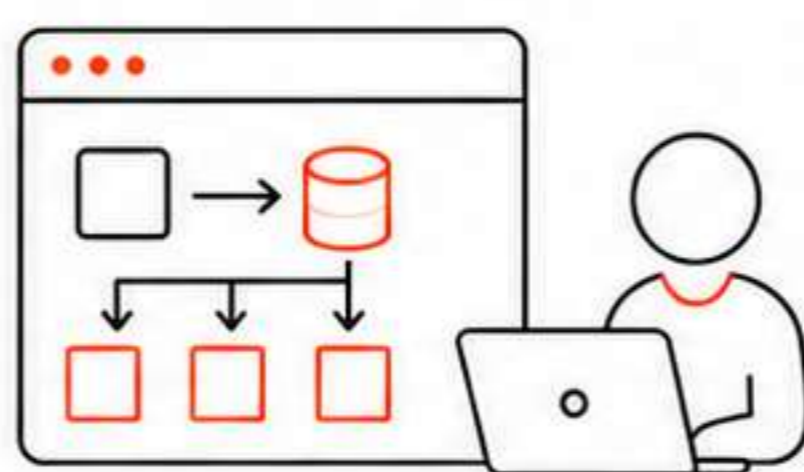
01



完全オーダーメイド研修

業種・業務・課題に合わせて、研修内容・ゴール・ツールまで完全にカスタマイズ。現場にフィットする実践的な研修を提供します。

02



仕組みを作りながら、人が育つ

AIやシステムの仕組みを実際に構築しながら学ぶことで、実務で使えるスキルと考え方が身につきます。

03



全国どこでも訪問する、現場密着の伴走型

全国どこでも現場に訪問し、現地で課題を把握。研修後も伴走しながら、成果が出るまで支援します。

研修後に残るもの：



AI人材

+



仕組み

+

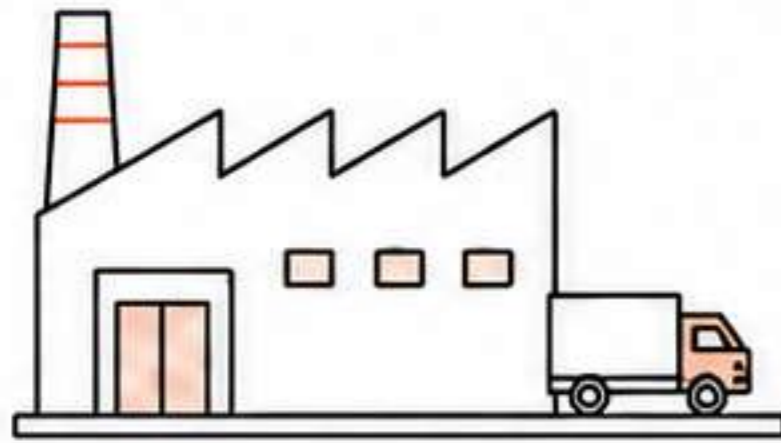


自走力

業務課題は、オンラインでは見えない

現場に入り込まないと、本当の課題に気づくことはできません。

01 課題は、現場にしかない



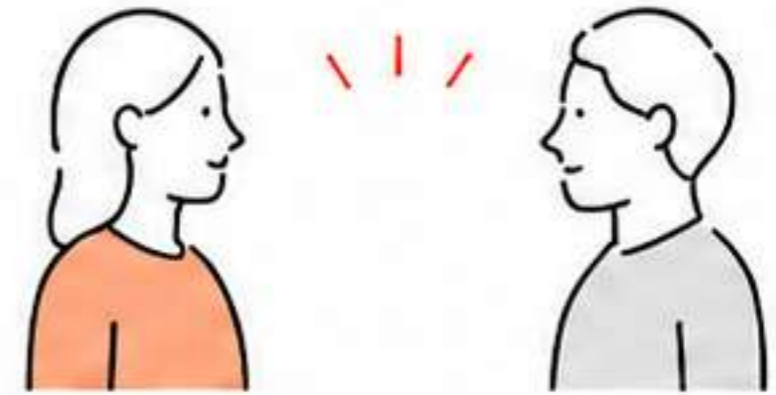
オンラインでは表面的な解決しかできません。
課題の本質は「現場」にこそあります。

02 つまづきを、リアルタイムで拾える



現場での反応や行動の中に、
改善のヒントが眠っています。

03 「来てくれる」事実が、緊張感と本気度を生む



本気で向き合う姿勢が、
信頼関係と変化の土台になります。



オンラインでは見えない“**実務の摩擦**”を、その場で発見・解決。

研修のゴール / 自走サイクル

「課題発見 → 構築 → 運用 → 改善」を、自社だけで回し続けられる組織へ。

現場の課題を見つける

1つの課題を解決し切った経験をもとに、別の課題を自ら発見し、優先順位をつけて整理する。



解決策を設計・構築する

業務に最適なAI・システムを設計し、小さく素早く試作・構築する。
現場にフィットする形で仕組み化する。



仕組みを運用・定着させる

現場での運用を支援し、効果を検証。
使いやすく、続けられる運用体制として定着させる。



効果を分析し、改善する

「使いやすさ、使って気づいた」をもとに、機能を見直し、使えるものにしていく。



単なる研修ではなく、AIを活用し業務課題を解決できる組織構築を目指します。

単純作業の工数が、**半分以下**に。

BEFORE

単純作業で、毎月多くの時間が消えていた



約 **50** 時間/月
全業務時間の約30%

AFTER

研修中に作った仕組みで、工数が半分以下に



約 **15** 時間/月


月 **35** 時間削減

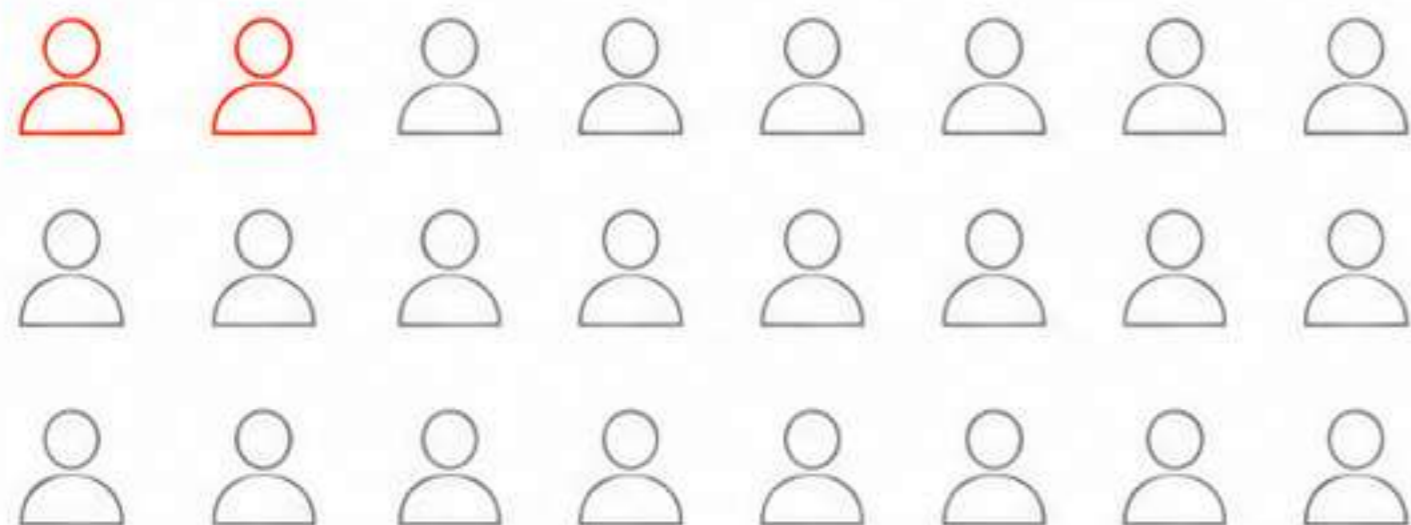
「AIは難しそう」が、自分たちで動かす文化に変わる。

BEFORE

AIに触れているのは、社内の一部だけ

1~2名

全社員の5~10%程度



AFTER

各部署の受講者を起点に、AI活用が他部署へ広がる

20~30名

3~5部署で日常的に活用



「自分たちが作って成果を出した」事実が、最も強い説得力になる。

採用ではなく、AIで人件費の伸びを抑える。

BEFORE

業務量の増加に合わせて、
年1名の追加採用が必要

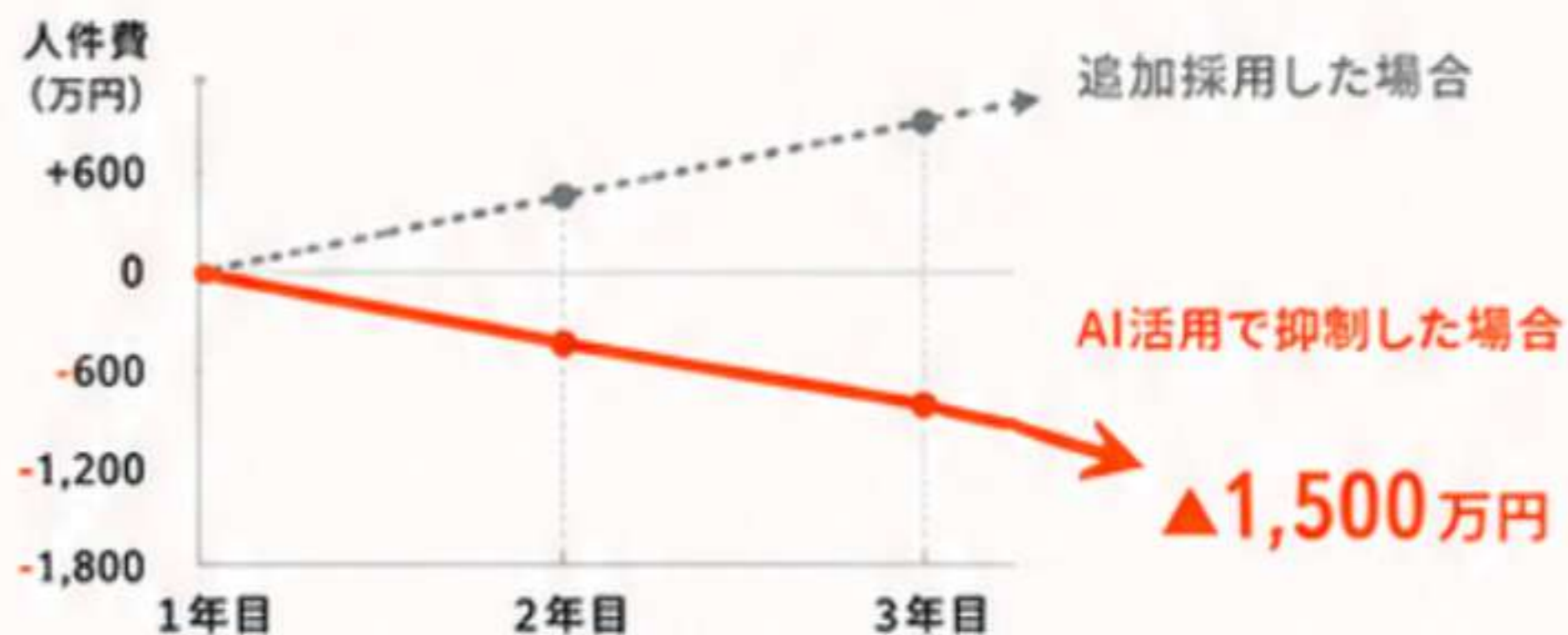
+600万円/年



AFTER

AIで処理能力を底上げし、
追加採用を1~2年延期できる






3年間の累積効果 ▲1,500万円



一度の投資が、中長期で人件費の伸び抑制として返ってくる。

6ヶ月で、いつ何が見えるか

4ヶ月目に最初の仕組みが完成。5ヶ月目で現場稼働、6ヶ月目で定着化。

月	セッション	内容	見える成果・アウトカム
1ヶ月目	第1回	現状整理と課題特定、AI活用の方向性を決める	 取り組みテーマの決定
2ヶ月目	第2回	実践事例・ノウハウ学習と、小さな実践計画の策定	 実践の進め方を体感
3ヶ月目	第3回	データ・業務プロセスの整理と、プロトタイプ設計	 プロトタイプ着手
4ヶ月目	第4回	プロトタイプの構築・検証と、最初の仕組み完成	★ ★最初の仕組みが完成
5ヶ月目	第5回	現場での試行・改善と、運用ルールの整備	 現場での稼働開始
6ヶ月目	第6回	定着化に向けた仕組み化と、内製体制の構築	 自走体制の確立



月1回×約5時間の訪問研修＋研修間の実践課題で、研修と業務改善が同時に進みます。

研修で作れる仕組み・身につくスキル

修了証ではなく、実業務で使える「仕組み」が組織に残ります。

01



議事録の自動作成

会議音声やメモから要点を自動抽出し、議事録を即時作成。

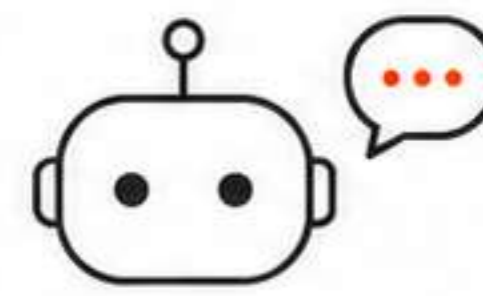
02



見積書・請求書の自動生成

案件情報をもとに見積書や請求書を自動で作成・出力。

03



社内用ボット構築

社内ナレッジやFAQを活用した問い合わせ対応ボットを構築。

04



報告書の自動集計

各種データを集計・可視化し、報告書を自動で作成。

05



営業資料の標準化

提案情報のテンプレート化と自動生成で、品質と生産性を向上。

06



広告運用の自動化

広告レポートの自動作成や入稿・最適化の自動化フローを構築。

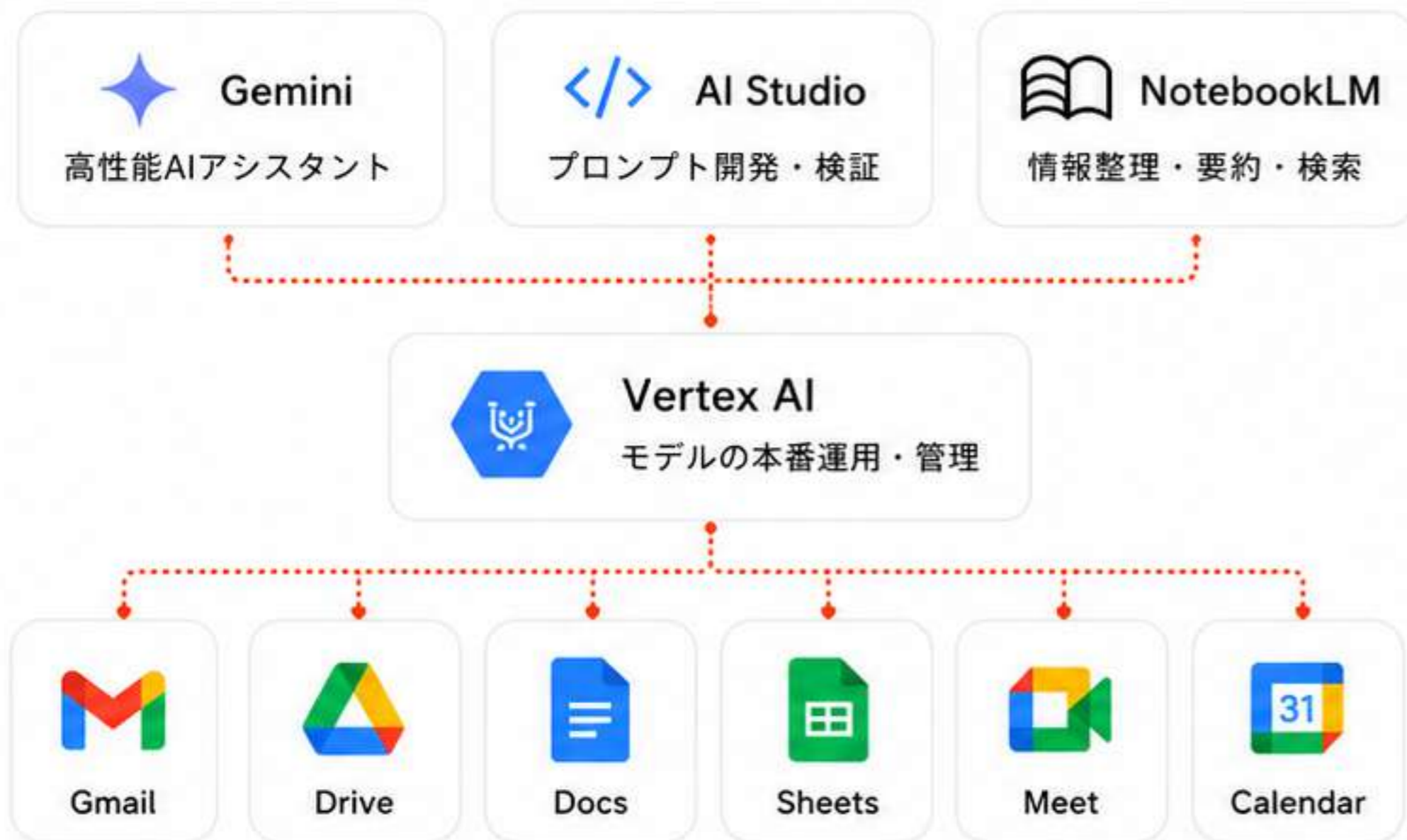


最初のヒアリングで最も効果の高いテーマを選定し、業種・職種に合わせてカスタマイズ。

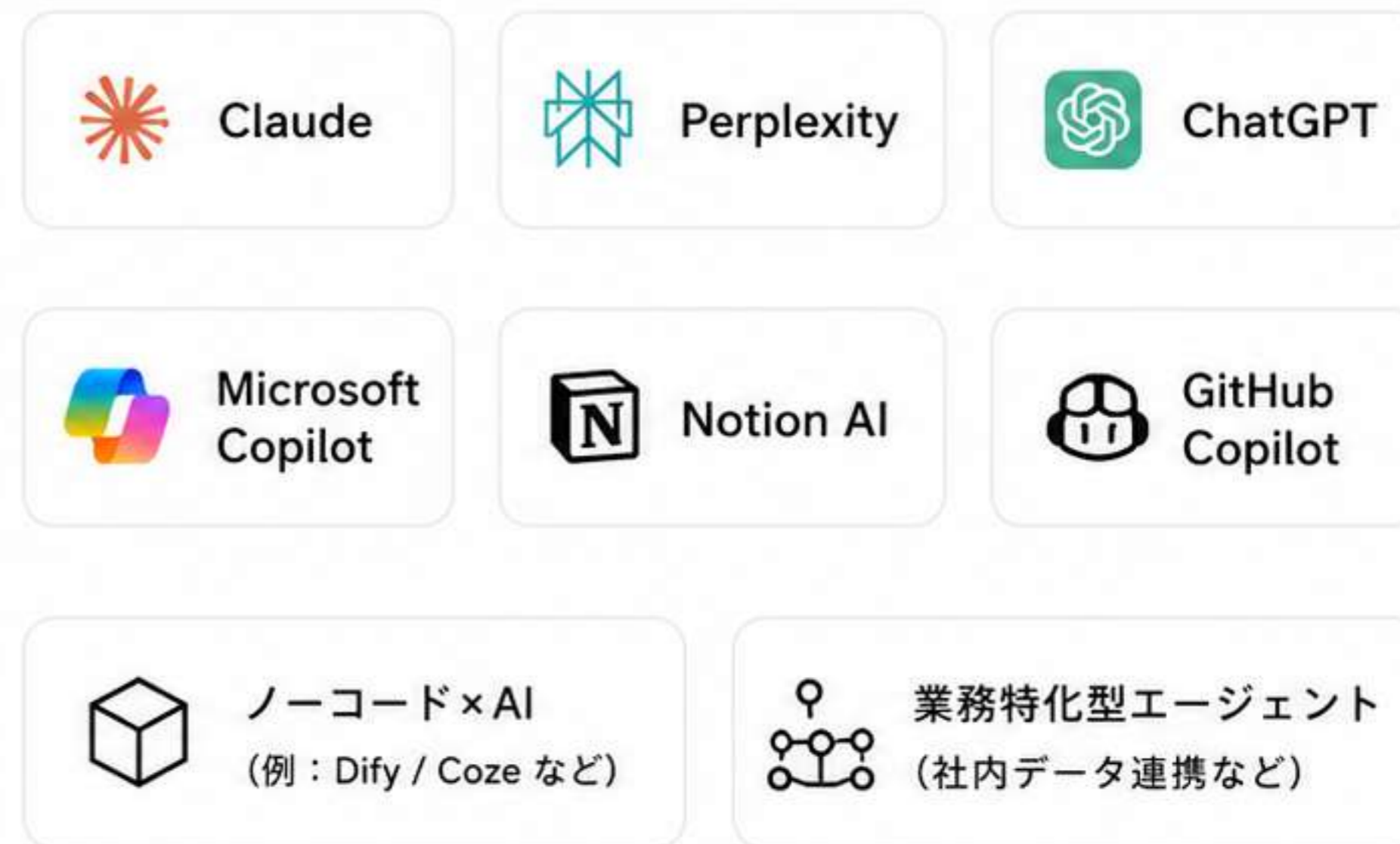
研修で扱うAIツール

Google Workspaceを推奨環境としつつ、御社の業務に合わせて個別ツールも組み合わせます。

Google Workspace エコシステム (推奨環境)



その他のツール (用途別に組み合わせ)



ツール選定にあたっては、セキュリティ要件・運用体制・既存システムとの連携性を踏まえて検討します。

他のAI研修サービスとの違い

修了証だけが残るのか、仕組みが残るのか。研修の中身は大きく違います。

	eラーニング型	集合研修型	カスタマイズ型
費用(1人)	1~3万円	5~10万円	20~40万円
カリキュラム	テンプレート中心	共通カリキュラム	カスタマイズ可
成果物	修了証のみ	資料・修了証	資料・簡易成果物
研修後の支援	なし	なし~限定的	一部サポート
対面対応	なし	会場での実施のみ	一部対応
業務課題の発見	自己判断に依存	一般論で終わる	ヒアリングは限定的

ユルリカ

50万円

(助成金活用で実質負担軽減※)

完全オーダーメイド

実務ツール+運用マニュアル

Slack+面談+個別補講枠

全国訪問対応

ROI分析+現場ファシリ

料金とサービス内容

完全オーダーメイドの研修プログラム・成果物・伴走サポート・全国訪問費まで、一式に含まれます。

1名 / **50** 万円 (税抜)



研修期間

約6ヶ月 (月1回×6回)



受講対象

中小企業の経営者・実務担当者



最少催行人数

1名から開講可能

サービスに含まれる内容



✓ プログラム設計・教材作成



✓ 月1回×6回の訪問研修



✓ コア講師2名+業種別エキスパート



✓ Slackサポート (期間中いつでも質問OK)



✓ 個別補講枠 (必要に応じて追加対応)



✓ 運用マニュアル (研修中に作成・納品)



✓ 修了後1ヶ月フォロー (運用定着サポート)



✓ 助成金申請書類作成サポート



✓ 全国訪問費 (交通費・宿泊費を含む)



助成金活用により、**実質負担を大きく軽減**できる可能性があります。

次のページでシミュレーションをご紹介します。

人材開発支援助成金で、実質負担を大きく軽減

経費助成75% + 賃金助成で、研修費の実質負担が軽くなります（中小企業の場合）。

中小企業3名受講のケース

	研修費	150.0万円
	経費助成 (75%)	▲112.5万円
	賃金助成 (1人あたり1.44万円×6回)	▲43.2万円
	助成額合計試算	155.7万円

研修費総額

150.0万円

助成金でのカバーイメージ

155.7万円






賃金助成
43.2万円

経費助成
112.5万円

実質負担

0円~

主な受給要件 (ポイント)

-  雇用保険に加入していること
-  DX関連の訓練であること
-  OFF-JTで10時間以上であること
-  賃金の支払いを受けていること
-  計画届を事前に提出すること



助成金は事後精算・審査制であり、受給を保証するものではありません。

まずは、御社の業務課題をお聞かせください

無料相談の中で、AI活用の余地・優先テーマ・助成金活用の可能性まで整理します。

STEP 1



現状ヒアリング

業務課題・現状の取り組み・ご希望を丁寧にお伺いします。

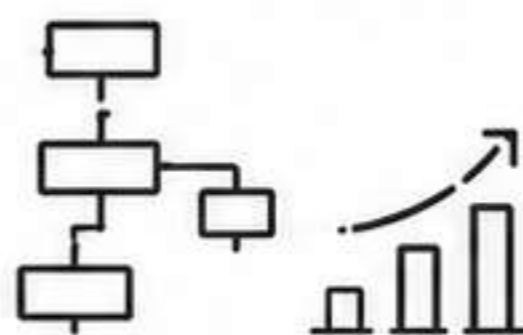
STEP 2



テーマ仮説のご提案

AI活用の余地と優先テーマを絞り、効果の見込みを整理します。

STEP 3



導入プランの設計

研修プログラム・スケジュール・助成金活用のプランを設計します。

こんな相談からでOK

- ✓ 何から始めればよいか分からない
- ✓ どの部署から着手すべきか知りたい
- ✓ 助成金を使えるか確認したい
- ✓ まずはテーマだけ試したい



現場で使える仕組みを、研修の中で作る。

まずは無料相談へ。お気軽にご連絡ください。